Vas Rack-G

（取扱説明書）

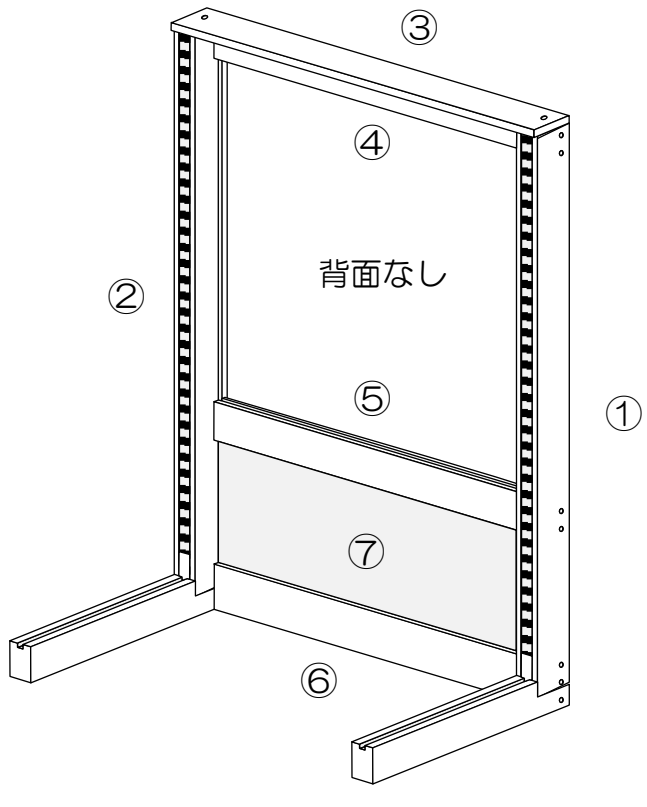
片面用・両面用の組立方法はほとんど同じです。

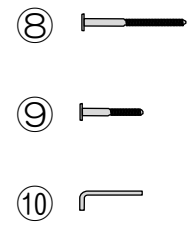
すべては、基本ユニットの組立からはじまります。
以下、片面用の組立についてご説明致します。

１．　必要な部材の内容及び数量確認

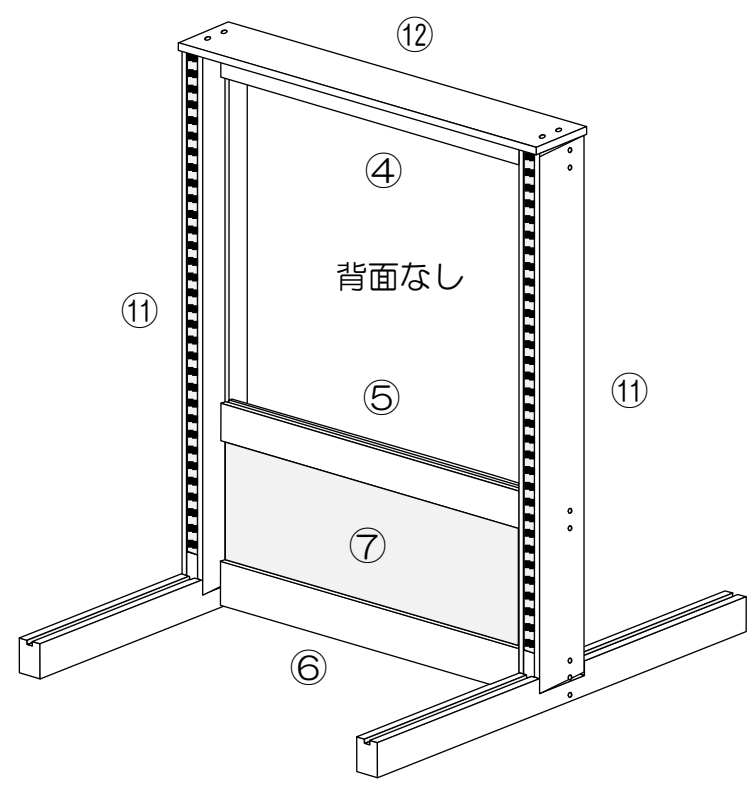
基本ユニットを構成する部材（下表）があるか・・・確認お願いします。

■ 片面用　基本ユニット





■ 両面用　基本ユニット



	部　材　名		数量
片面什器	①	L型フレーム R	1本
	②	L型フレーム L	1本
	③	L型フレーム 頭連結材	1本
	④	フレーム 連結材（上）	1本
	⑤	フレーム 連結材（中）	1本
	⑥	フレーム 連結材（下）	1本
	⑦	共通ユニット下パネル材（シナベニヤ）	1枚
	⑧	ジョイントボルト（ 長 ）	1式
	⑨	ジョイントボルト（短）	1式
	⑩	4㎜六角レンチ	2本

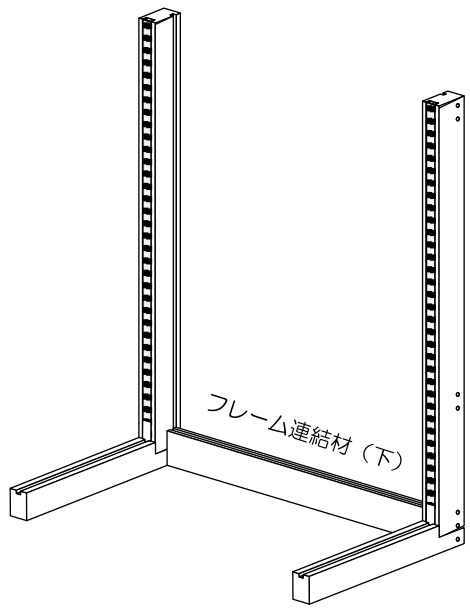
	部　材　名		数量
両面什器	⑪	T型フレーム（右・左用兼用）	1本
	⑪	T型フレーム （右・左用兼用）	1本
	⑫	T型フレーム 頭連結材	1本
	④	フレーム 連結材（上）	1本
	⑤	フレーム 連結材（中）	1本
	⑥	フレーム 連結材（下）	1本
	⑦	共通ユニット下パネル材（シナベニヤ）	1枚
	⑨	ジョイントボルト（長）	1式
	⑩	ジョイントボルト（短）	1式
	⑪	4㎜六角レンチ	2本

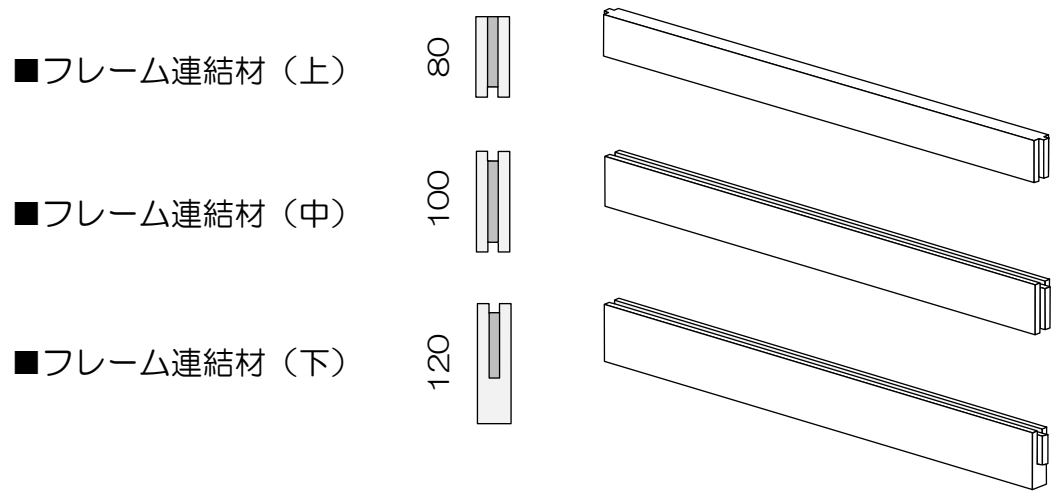
（注）※ T型フレームには、右用・左用の区別はありませんが、意匠上の都合により、
右・左が発生した場合は、その具別がわかるように明記いたします。

2.　基本ユニットの組立

①　L型フレーム（以下フレーム材）とフレーム連結材（以下連結材）の取付け

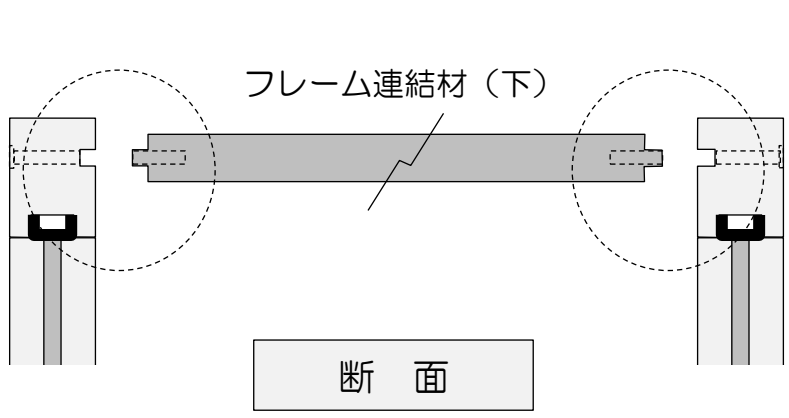
● 連結材（下）の取付け

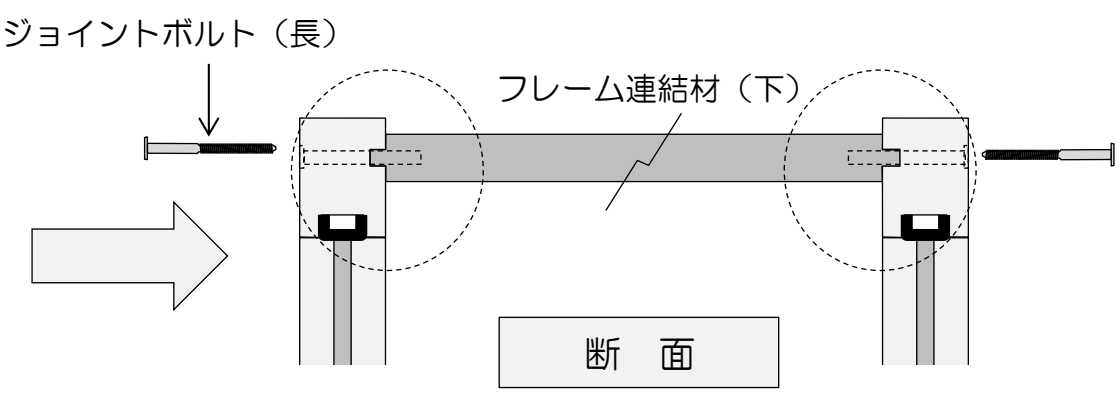




左右フレーム材の溝に連結材の凸部をあてがい、しっかり押し込んでください。
左右フレーム材の貫通穴に外側からジョイントボルトを差し込み、付属の六角レンチ（4㎜）で
締めこみながら固定します。

片方のフレーム材と連結材を仮固定してから、もう片方のフレームを固定する方法をお奨めします。

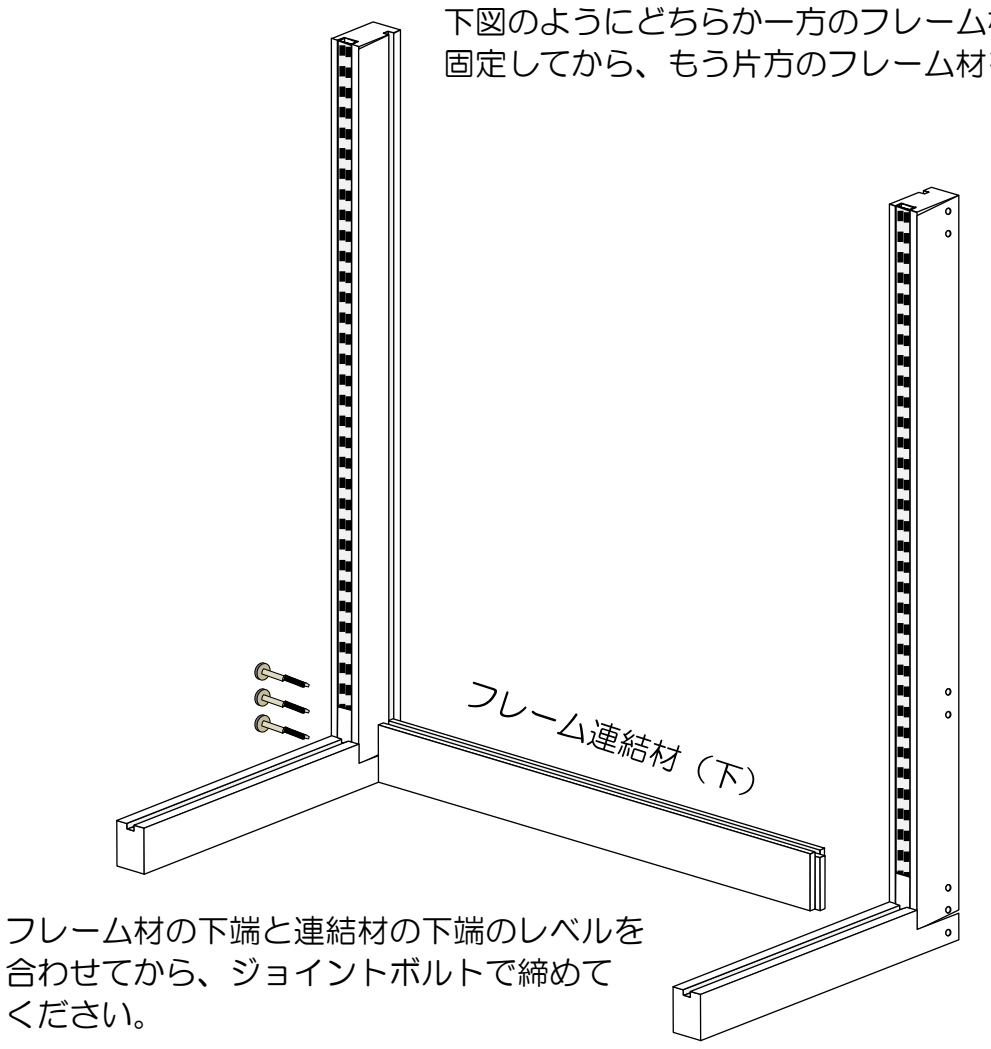




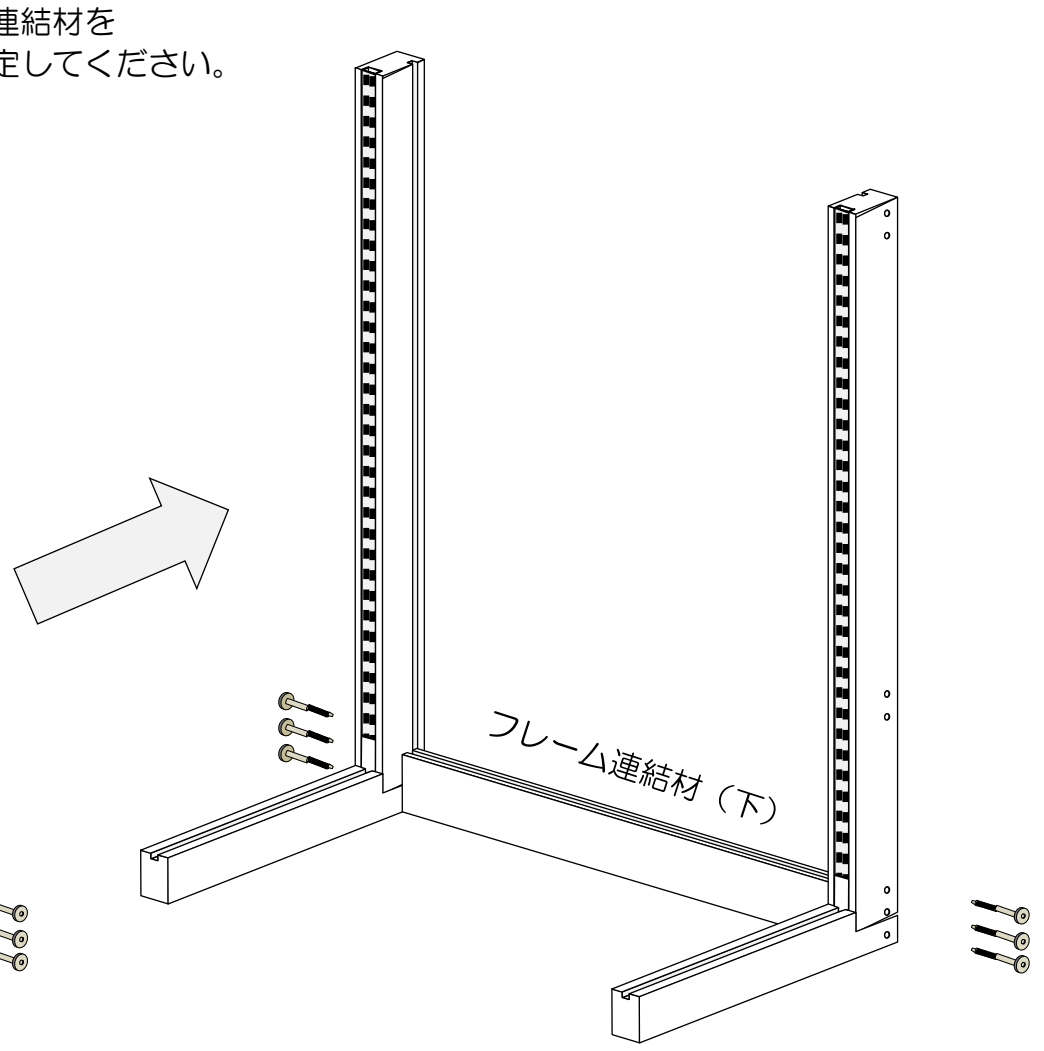
連結材の凸部をフレーム材の溝にしっかり差し込んでから、ジョイントボルトで固定してください。

（注）● ジョイントボルトの締めこみは、あまりきつく締めこまないでください。締めこみがきつくなりますと、
ジョイントボルトを受けるアンカーが木部から抜けてしまう場合がありますのでご注意ください。
なお、ジョイントボルトの本締めは、基本ユニットが完成した後に行いますので、それまでは仮締めでお願いします。

● L型フレームの溝にフレーム連結材（上・中・下）の凸部がうまく入らない場合は、お手数ですがフレーム連結材の
凸部をカッターナイフ等で 削ったり、サンドペーパーで擦ってから、再度溝に入れなおしてください。



下図のようにどちらか一方のフレーム材と連結材を
固定してから、もう片方のフレーム材を固定してください。



フレーム材の下端と連結材の下端のレベルを
合わせてから、ジョイントボルトで締めて
ください。

● 共通ユニット下パネル材（シナベニヤ）のはめこみ

（注） 本部材が必要ない場合は、入れなくてもかまいません。

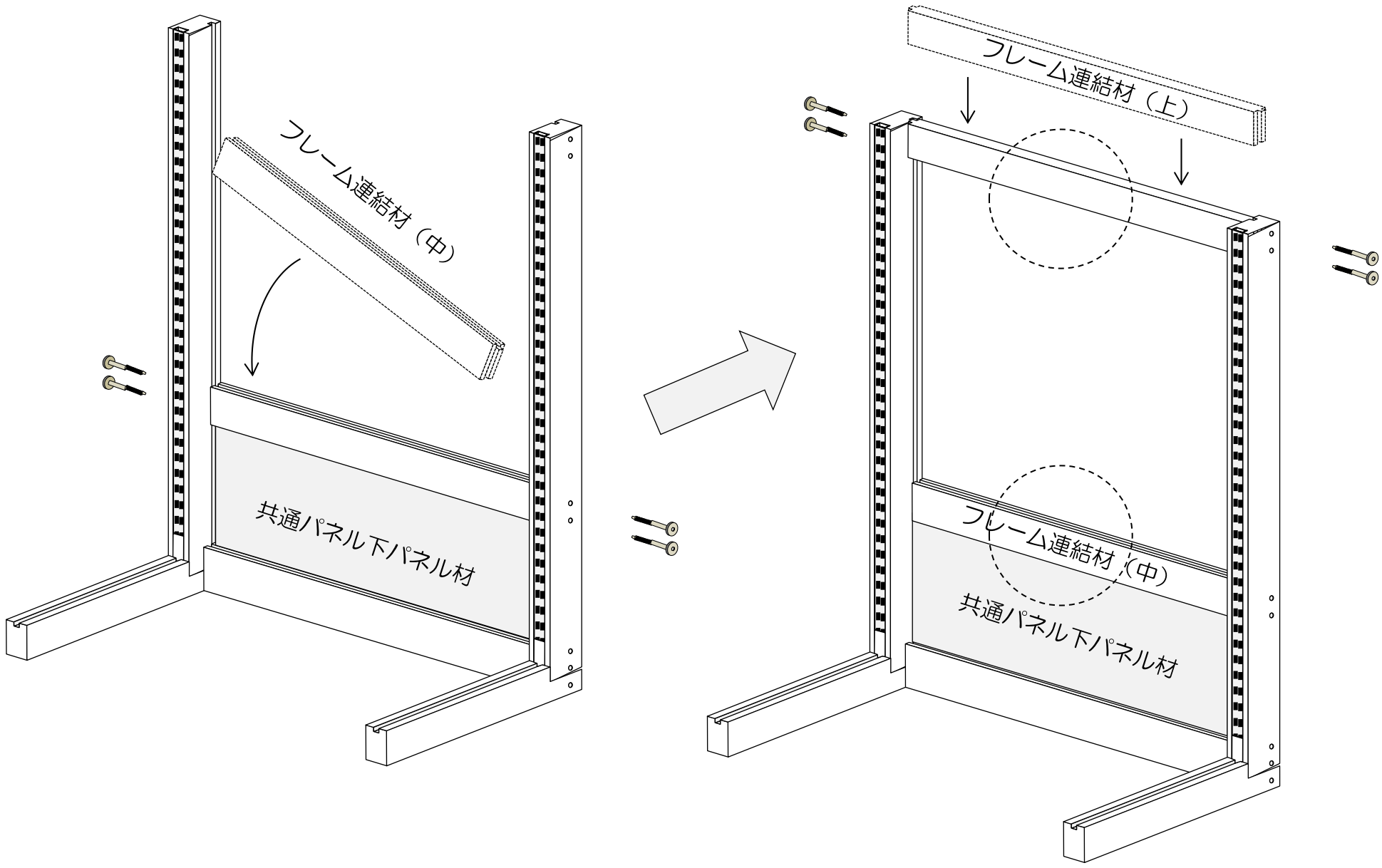
フレーム材の溝にそって、上から水平におろしていく要領で取り付けてください。

● 連結材（中）および連結材（上）の取付け

連結材（中）の凸部をフレーム材の溝に合わせながら、下左図のように斜めにしてから徐々に水平にもどしていく要領で取り付けしてください。

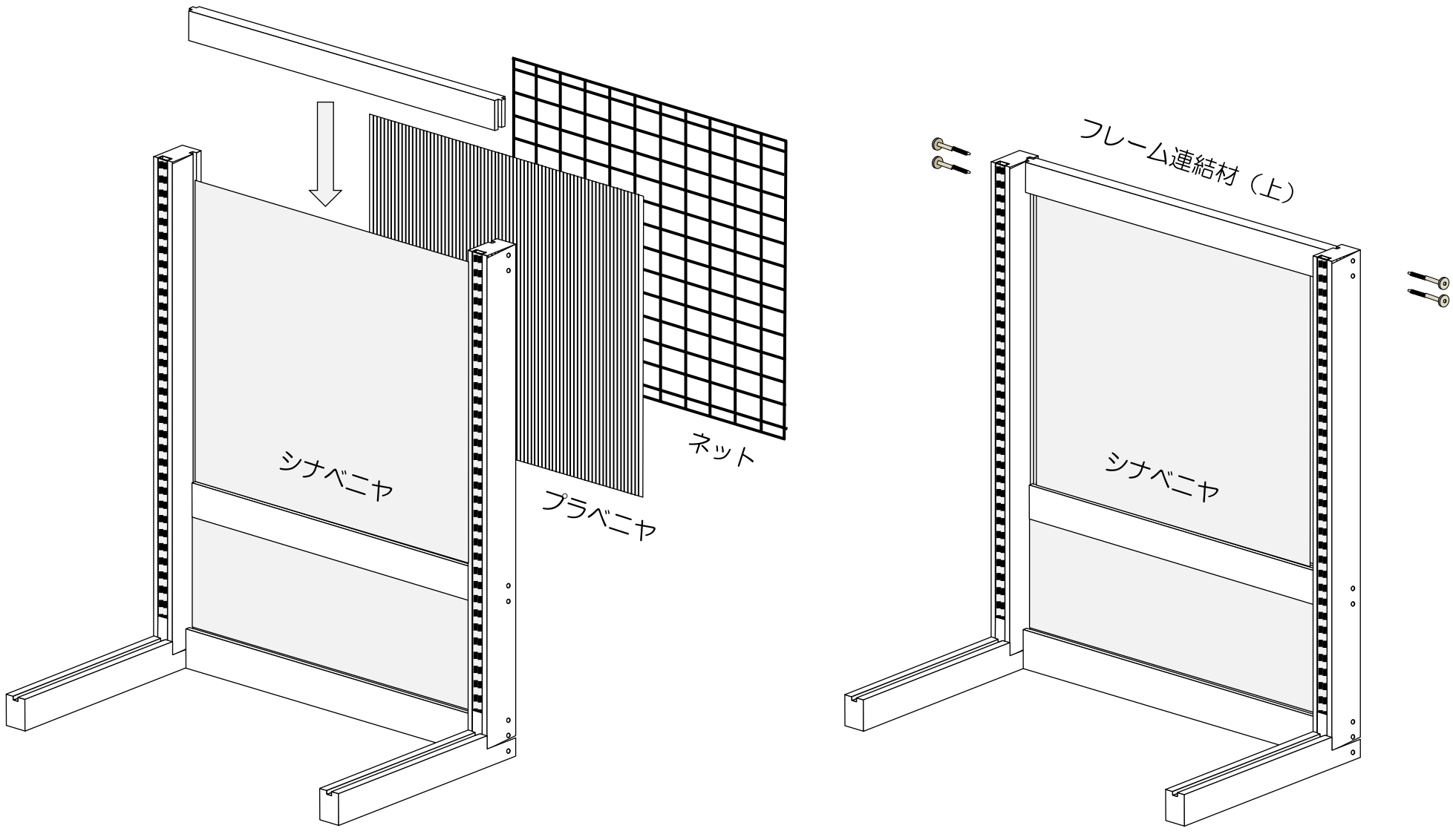
連結材（上）は、下右図のように溝にあてがい、水平におろしていく要領で取り付けてください。

ジョイントボルトを締める際は、必ず連結材（中・上）の位置が水平になっているか確認してください。



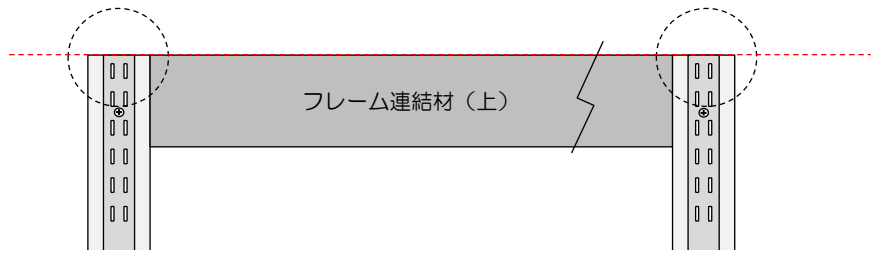
オプションで基本ユニット背面に各種パネル（シナベニヤ・プラベニヤ・ネット）を入れる場合

連結材（中）を固定した後に、左右フレーム材の溝に上から各種パネルを落とし込んで、連結材（上）をジョイントボルトで固定してください。



② フレーム頭連結材の取付け

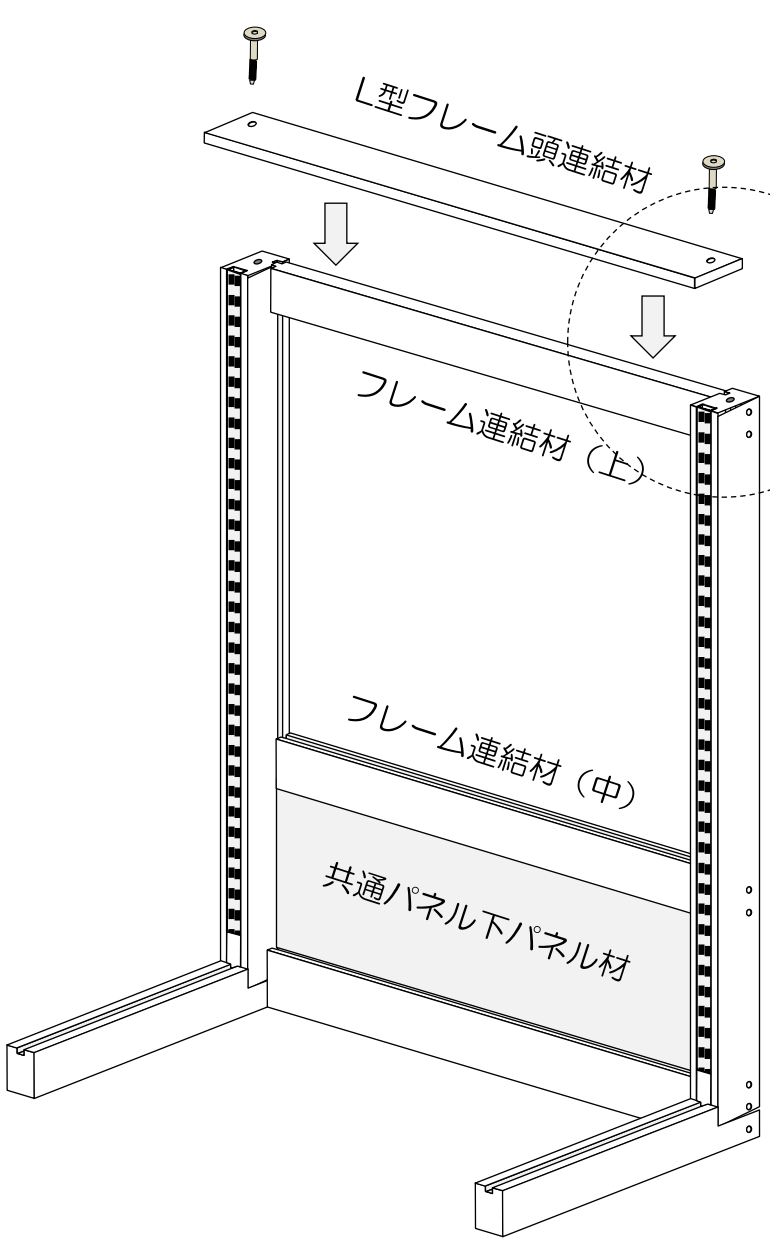
フレーム材の頭部分のレベルと連結材（上）が同じ水平レベルであることを確認してください。

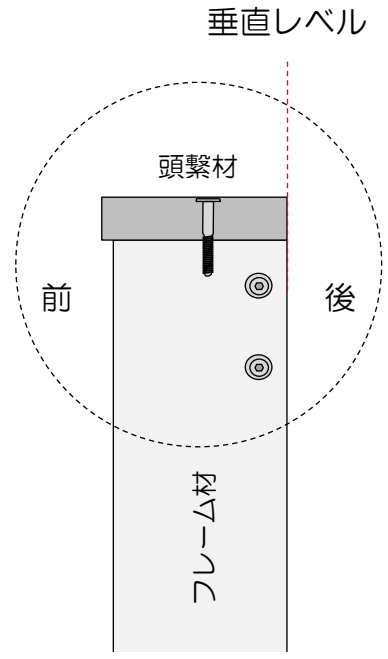


水平レベル

多少ずれがある場合はジョイントボルトを緩めてみて、再度
水平レベルをあわせてみてください。以前より改善する位置で
ボルトを締めてください。

ジョイントボルト（短）を使い、L型フレーム頭連結材を留め付けてください。

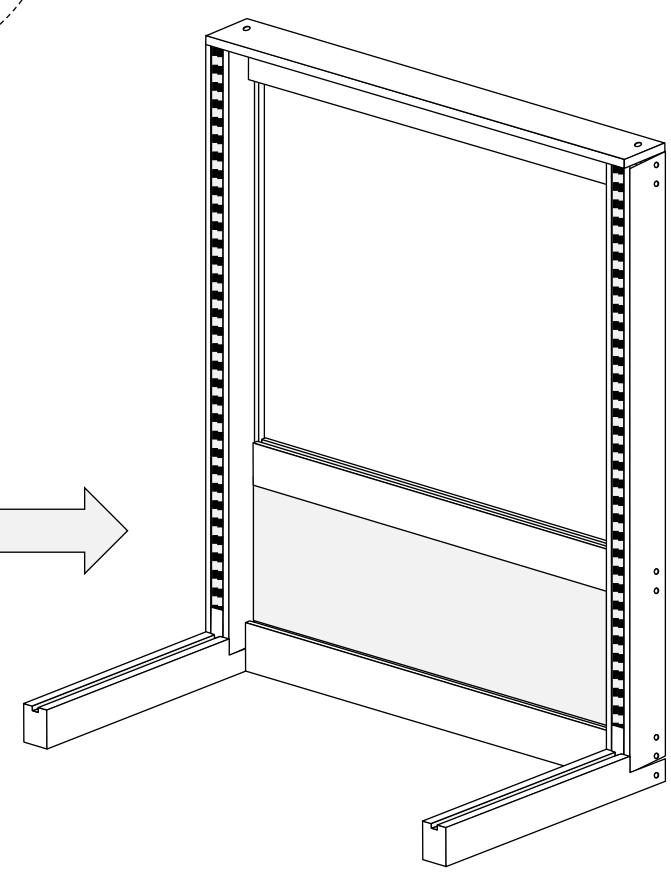




◆ フレーム材と頭繋材の後側は
そろえてください。

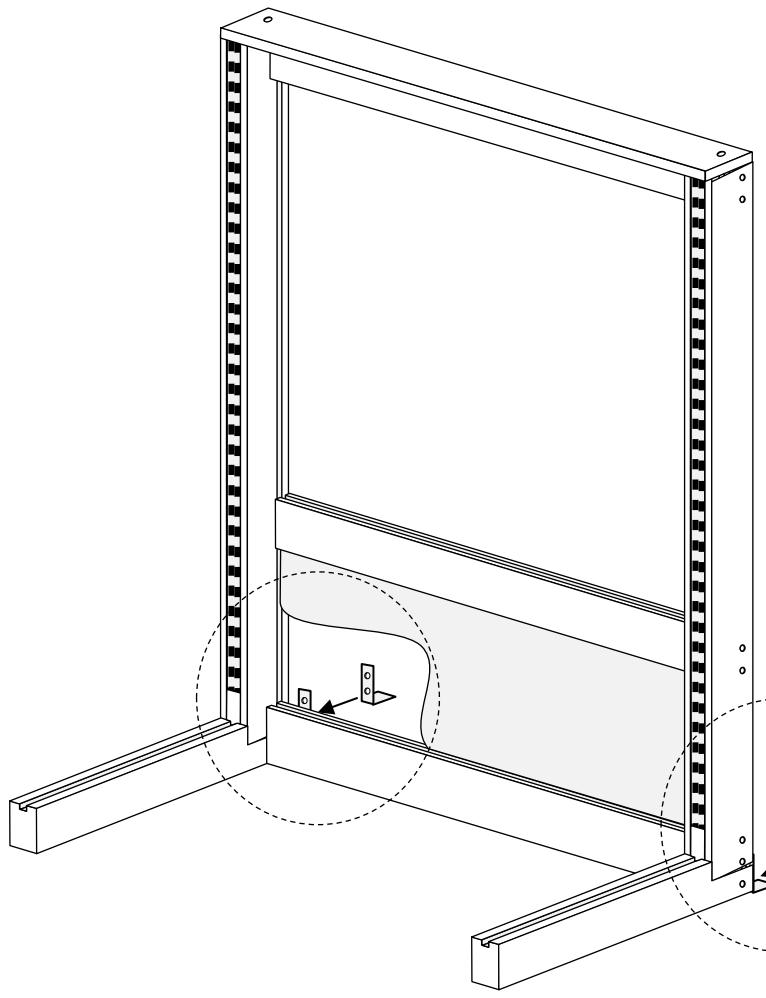
◆ 頭繋材はフレーム材から５㎜内外
前に出ます。

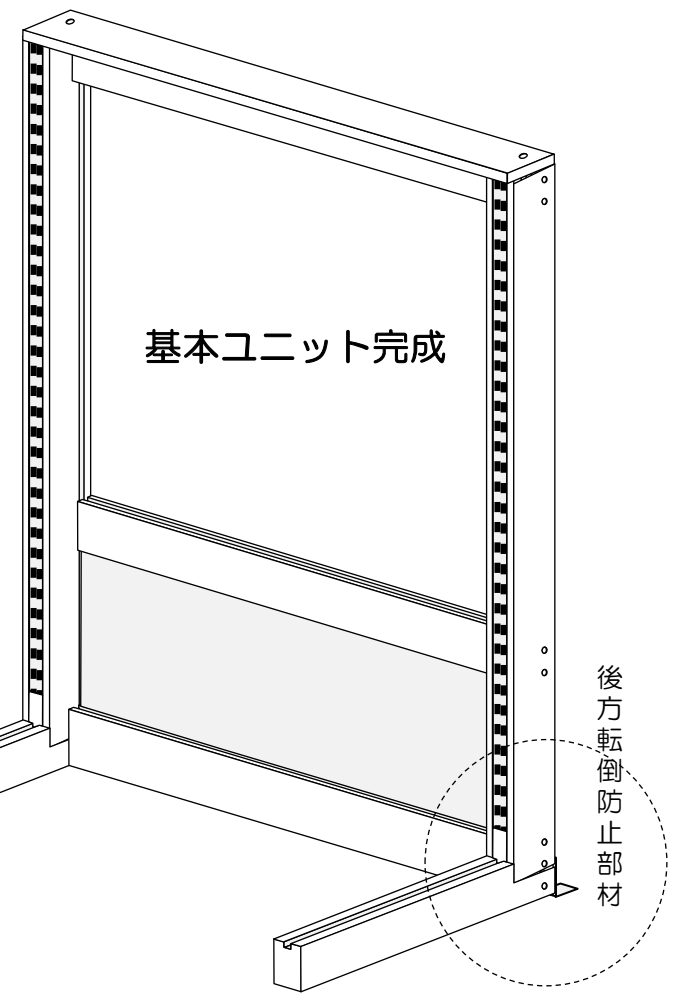
基本ユニット完成



③ 什器の転倒防止策についてのお願い

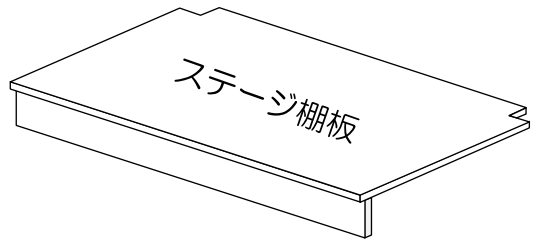
什器を壁面に設置し壁固定する場合、什器背面に別の什器があり後方への転倒が比較的防げる場合を除き、
必ず、市販のL型金物などを使い、転倒防止策を施してください。

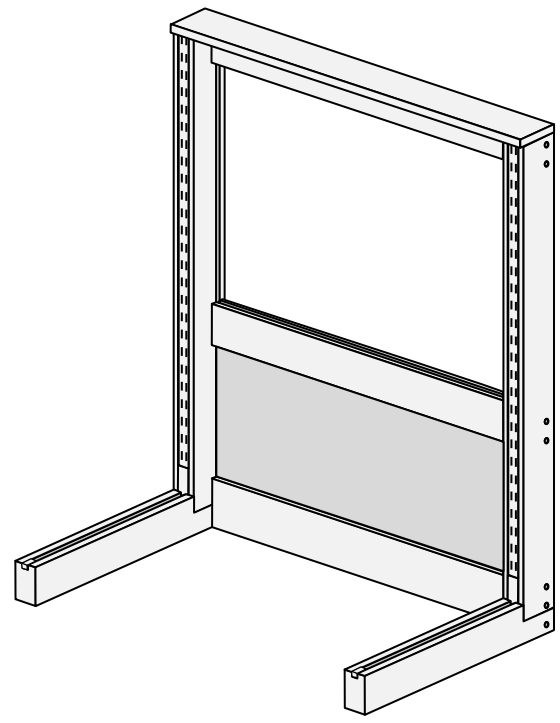


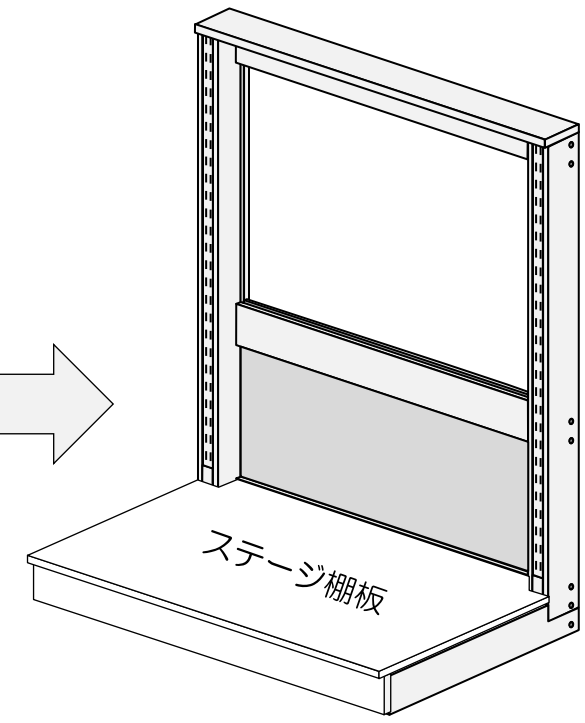


3.　各種部材の取付け

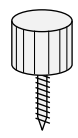
■　ステージ棚板の取付け



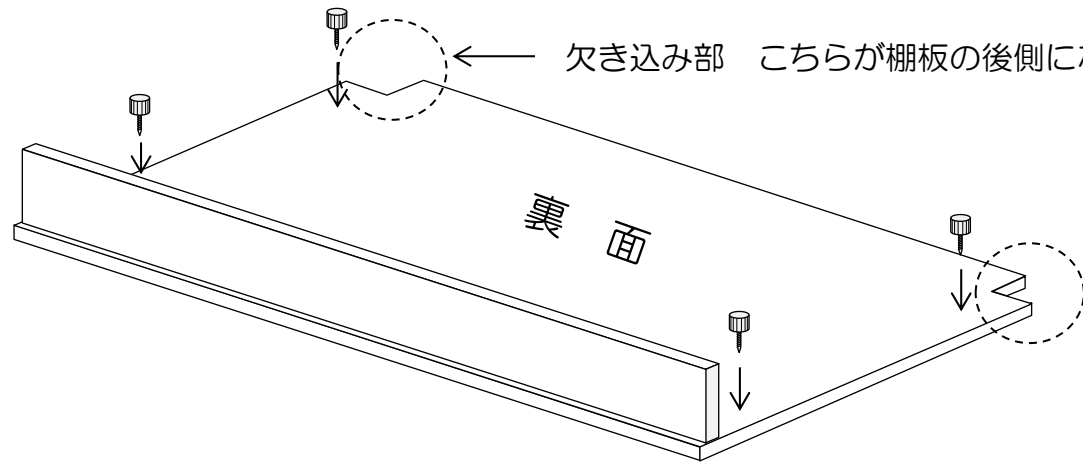




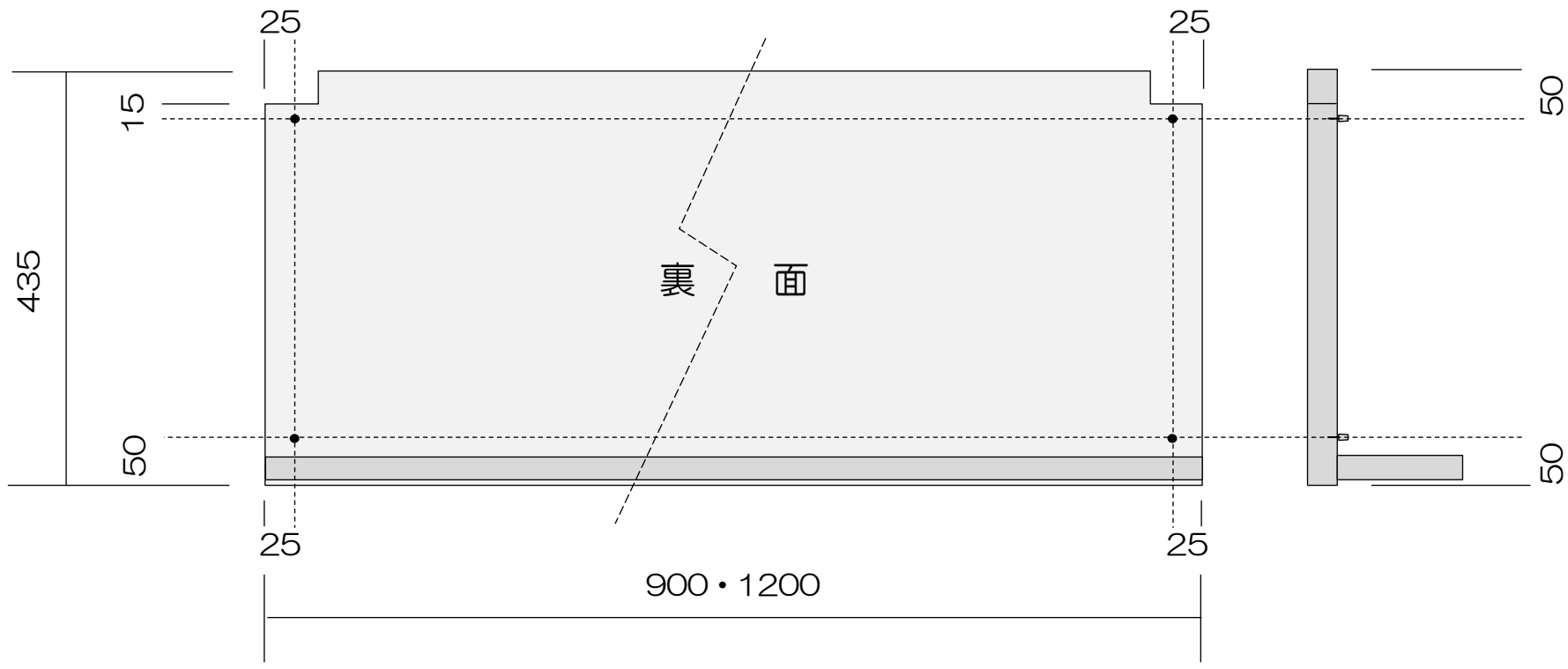
● ステージ棚板の裏側に打込ダボを ４個取付けます.



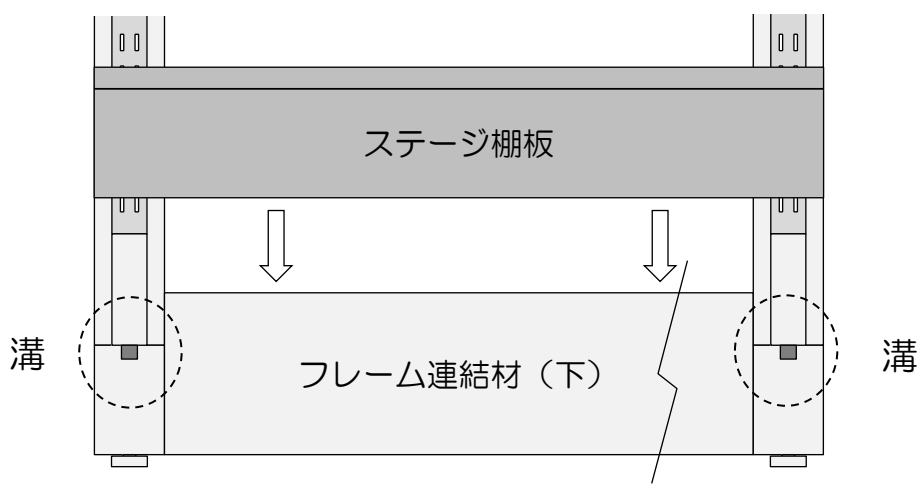
打込ダボは、かなづち等で打込んでください。

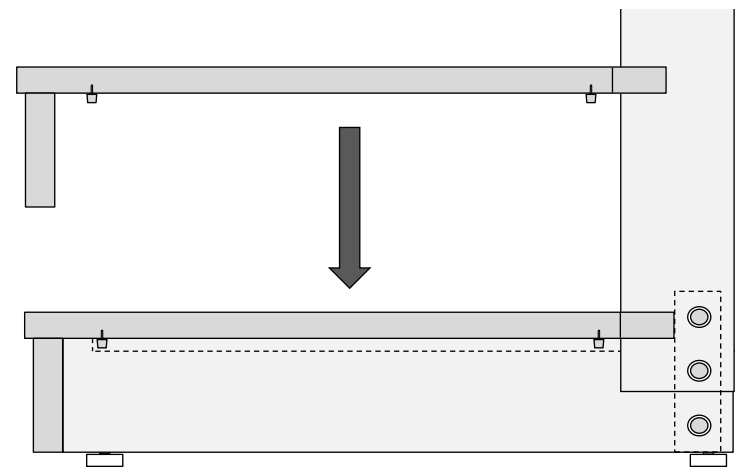


打込ダボ　位置



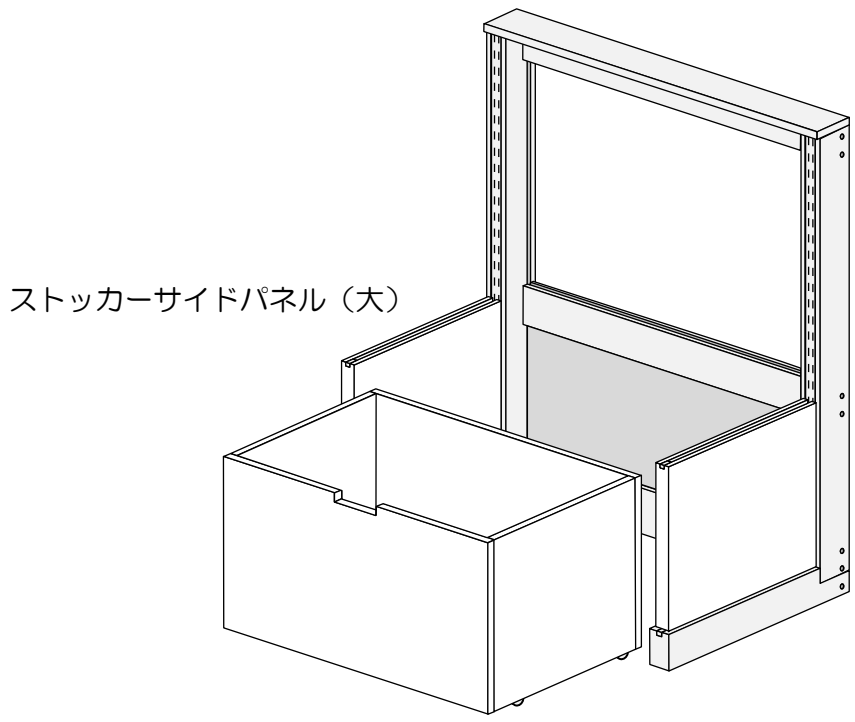
● 左右フレーム材の脚にある溝に、ステージ棚板の裏側に付けた打込ダボがはいるようにセットします。

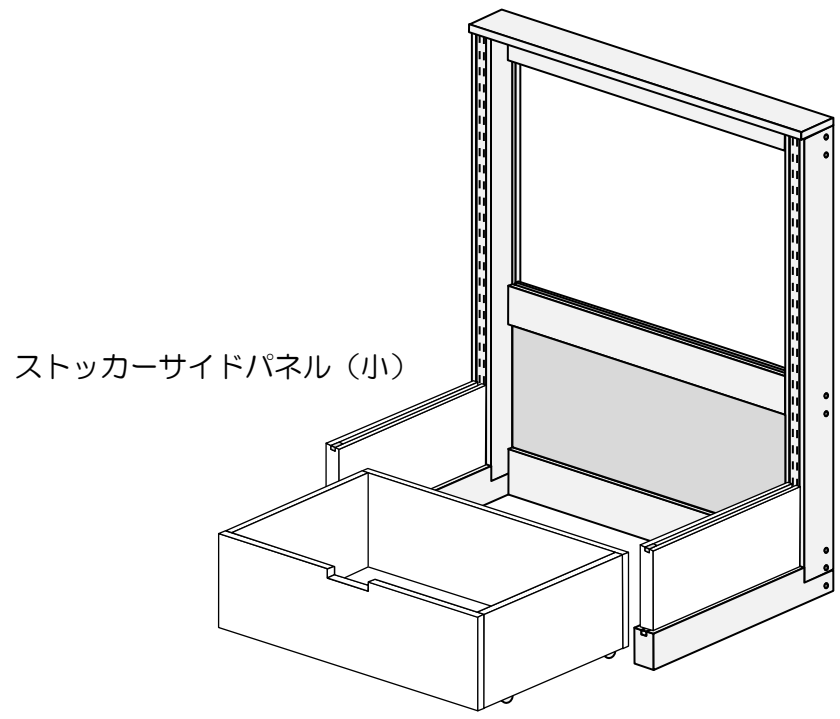




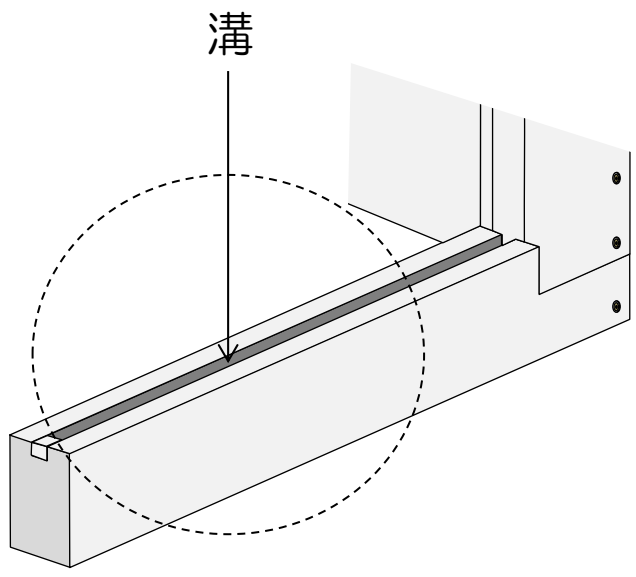
■　ストッカー関連部材の取付け

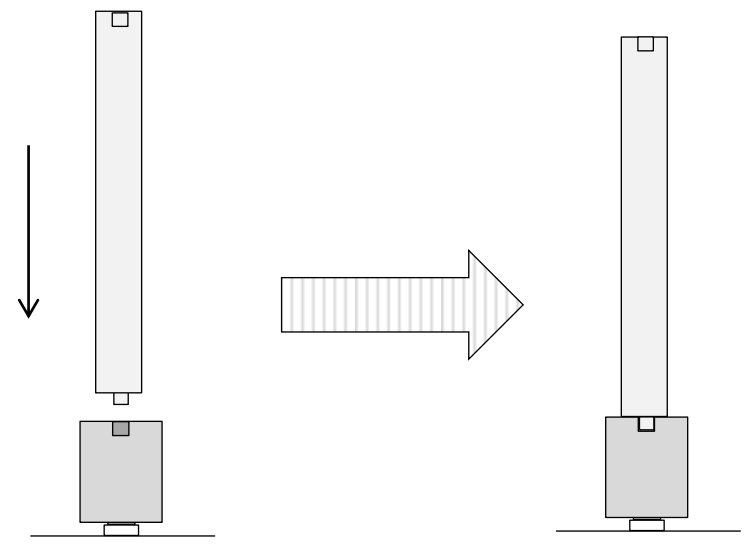
● ストッカーサイドパネルの取付け

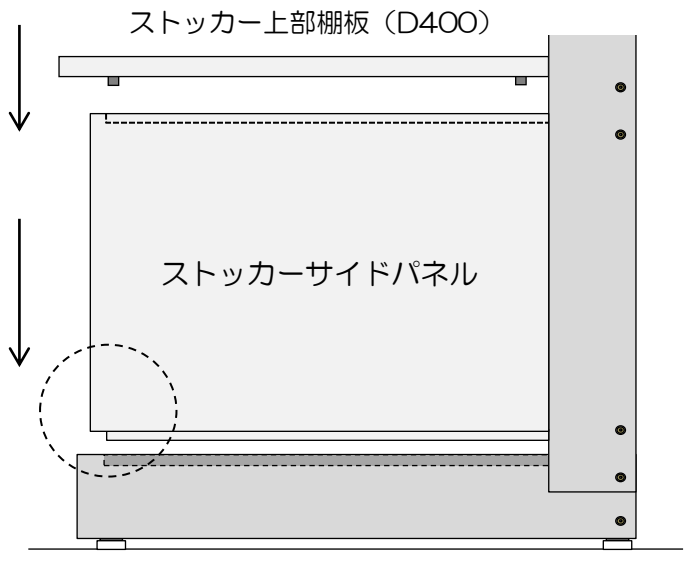


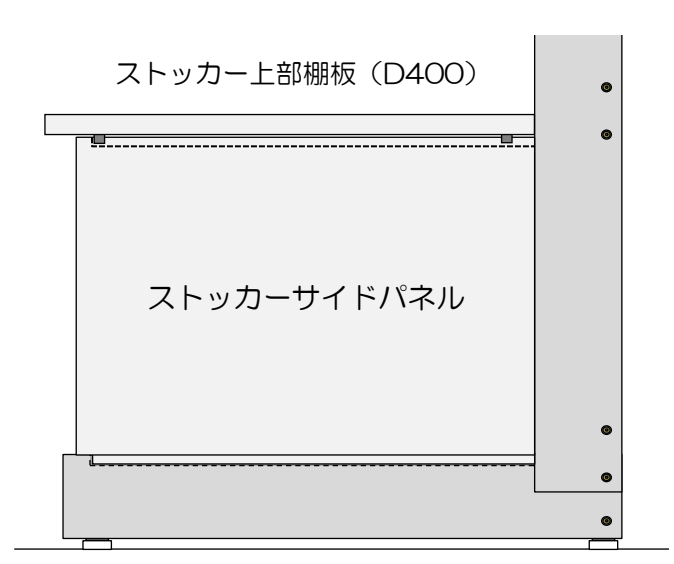


● 左右フレーム（Ｌ型・Ｔ型）の足元の溝にストッカーサイドパネルを落とし込みます。

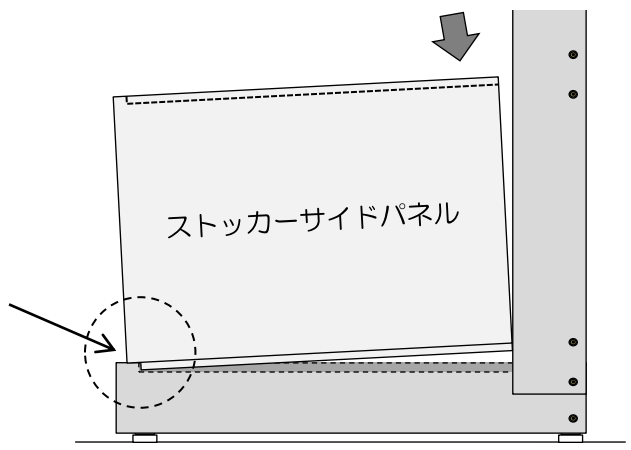




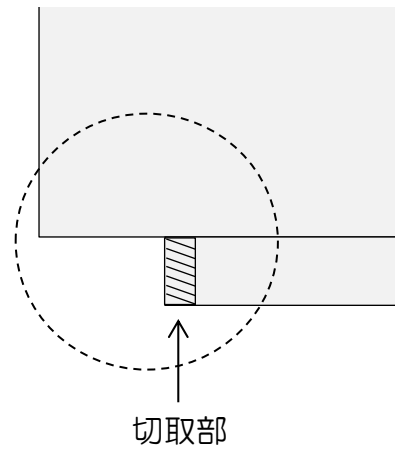




下図のように、ストッカーサイドパネルを斜めにして、溝の端部にあてがい、後側を押して水平にする要領で入れてください。無理に押し込もうとするとフレームを傷つけることがありますので、ご注意ください。



入れるのがきつい場合は、下図の部分をカッターナイフ等で数ミリ切り取ってください



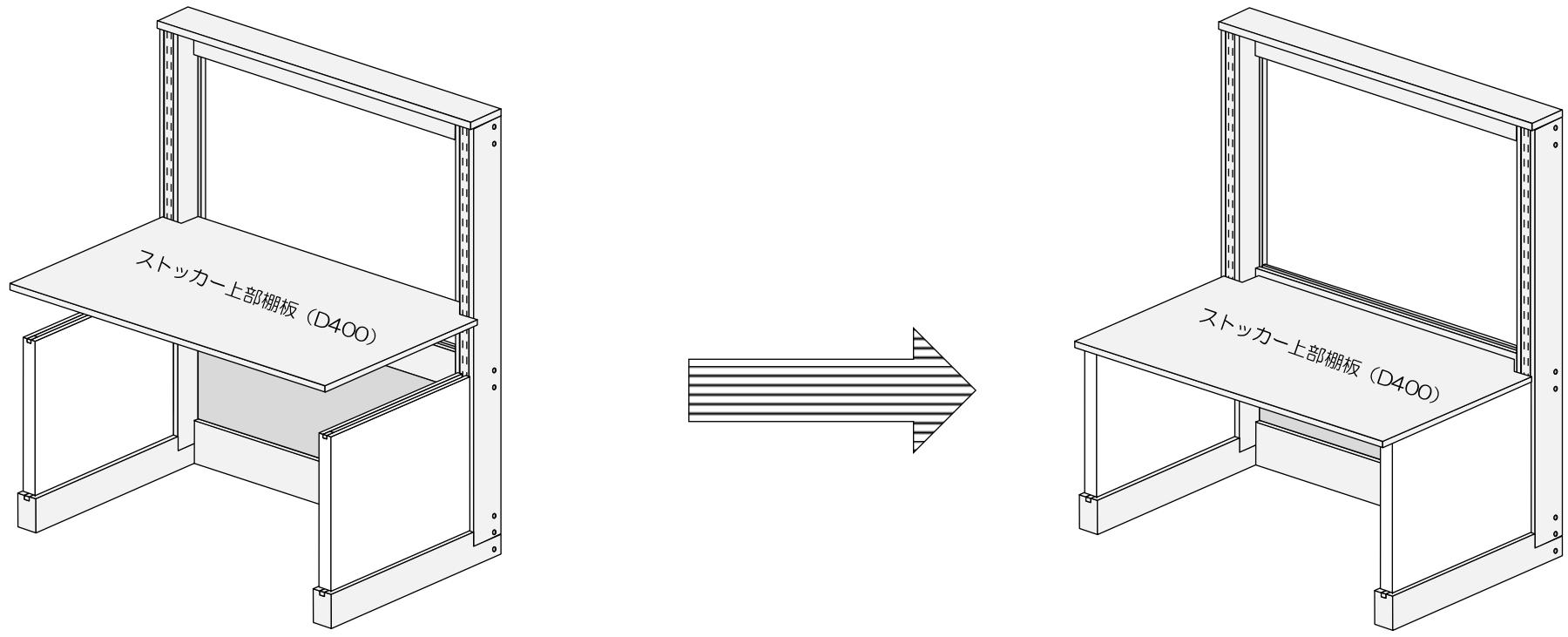
※ ストッカーの上部棚板の取付方法については、次項（各種棚板の取付け）を参照ください。

■　各種棚板の取付け

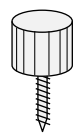
● ストッカーサイドパネルを使った場合の上部棚板の取付け

棚板は、【 棚板D400用 】を使います。

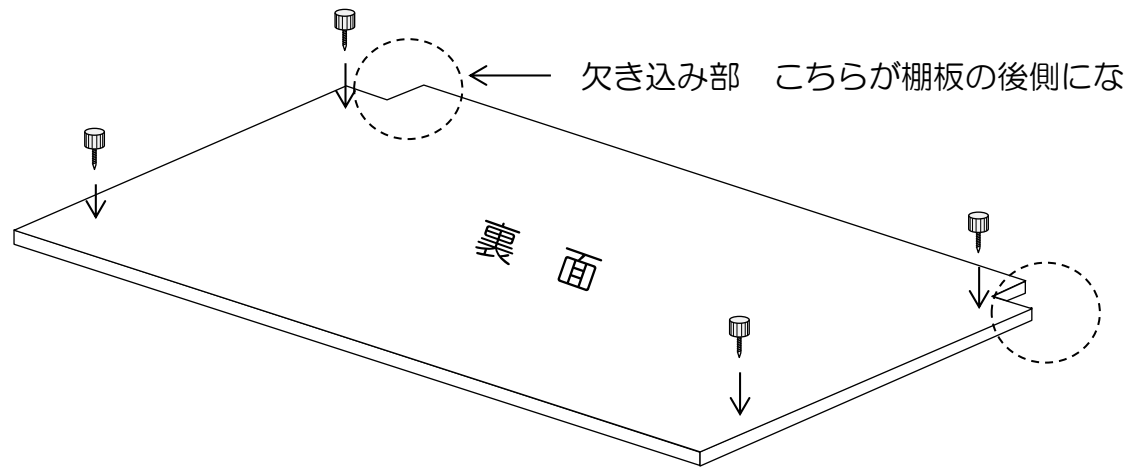
取付け方法は、基本的に前々項の【ステージ棚板の取付け】とほぼ同じです。



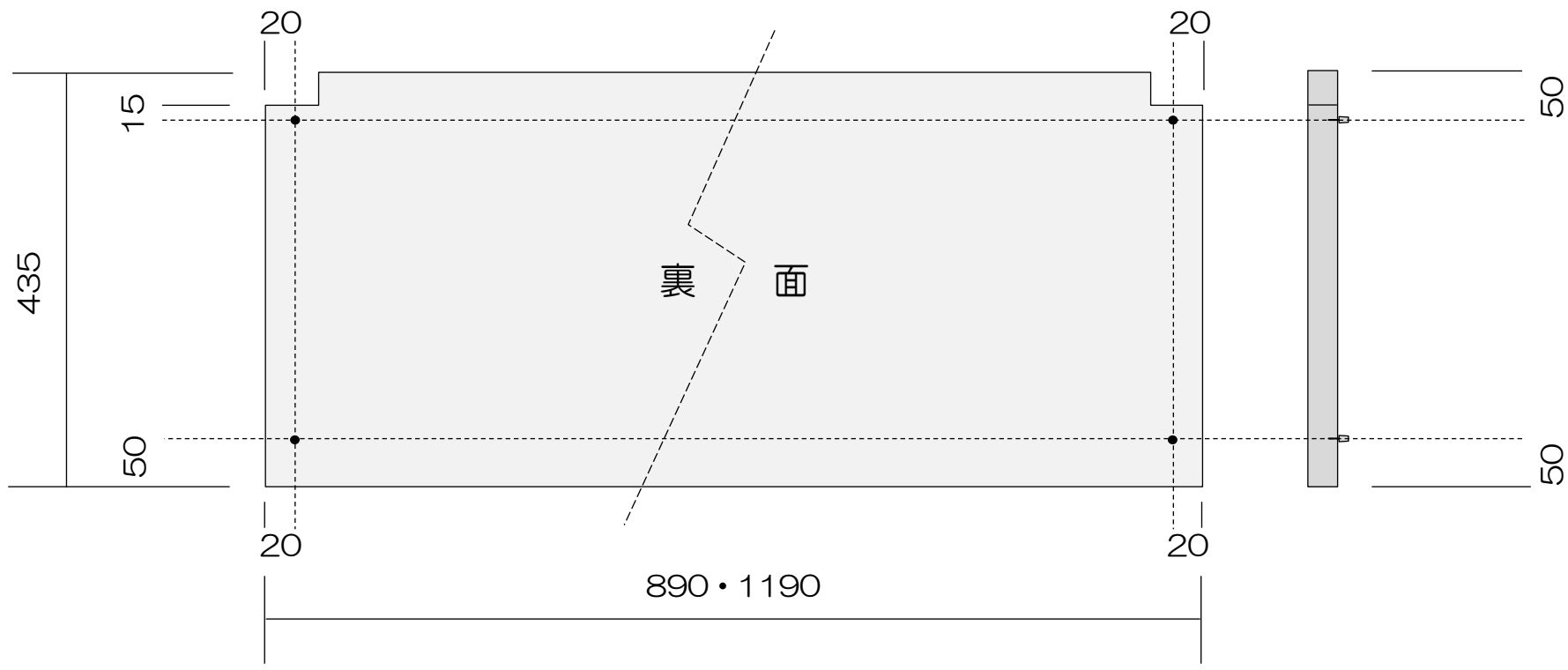
● 棚板の裏側に打込ダボを ４個取付けます.

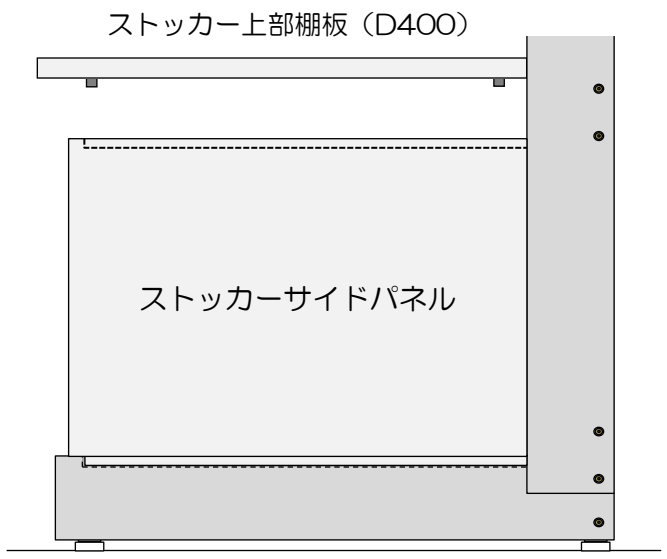


打込ダボは、かなづち等で打込んでください。



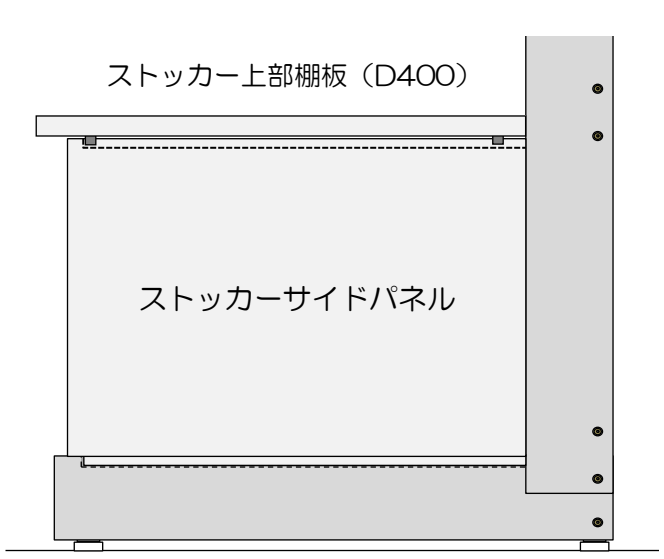
打込ダボ　位置



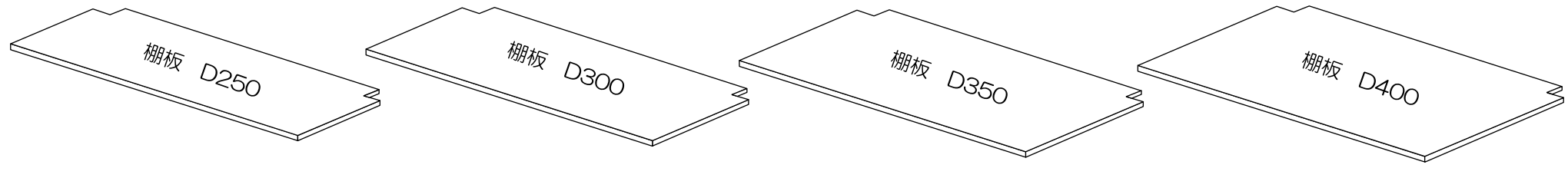


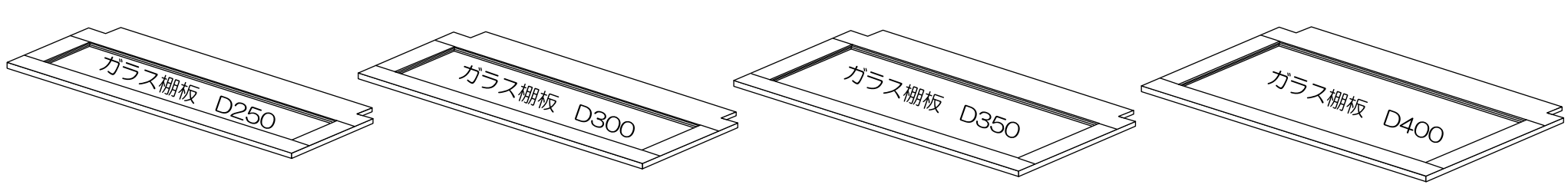
ストッカーサイドパネル上部の溝に
棚板の裏側につけた打込ダボが入る
ようにして、棚板を落とし込んでください。

うまく入らない場合は、
打込ダボの位置を
微調整してください。



■　各種棚板の取付け

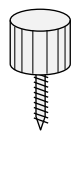




シェルフブラケット　D250用　　シェルフブラケット　D300用　　シェルフブラケット　D350用　　シェルフブラケット　D400用

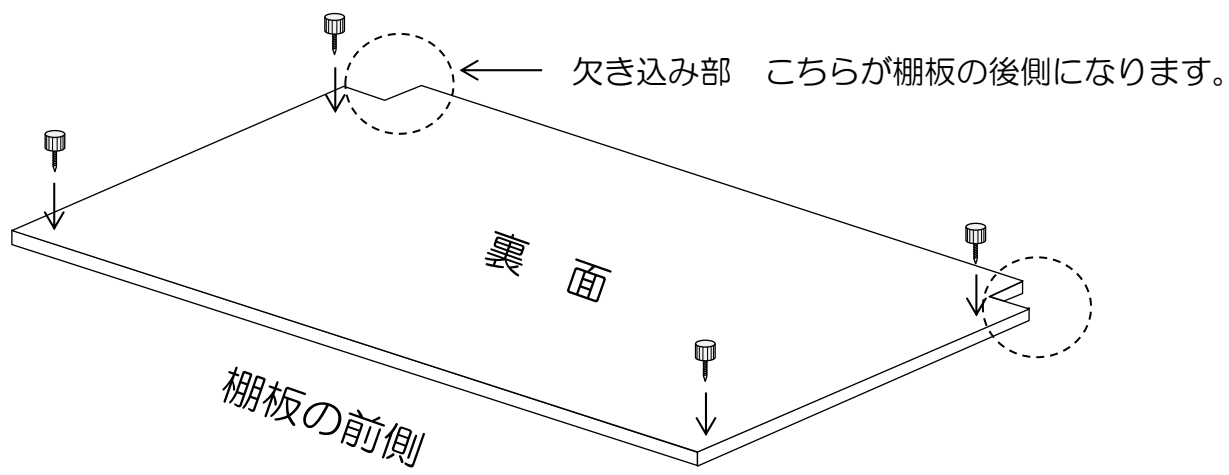
● 棚板には裏表がありませんが、きれいな面と思われる方を表面としてください。
　棚板の前後は、隅部に切り込みがある方が後側になります。

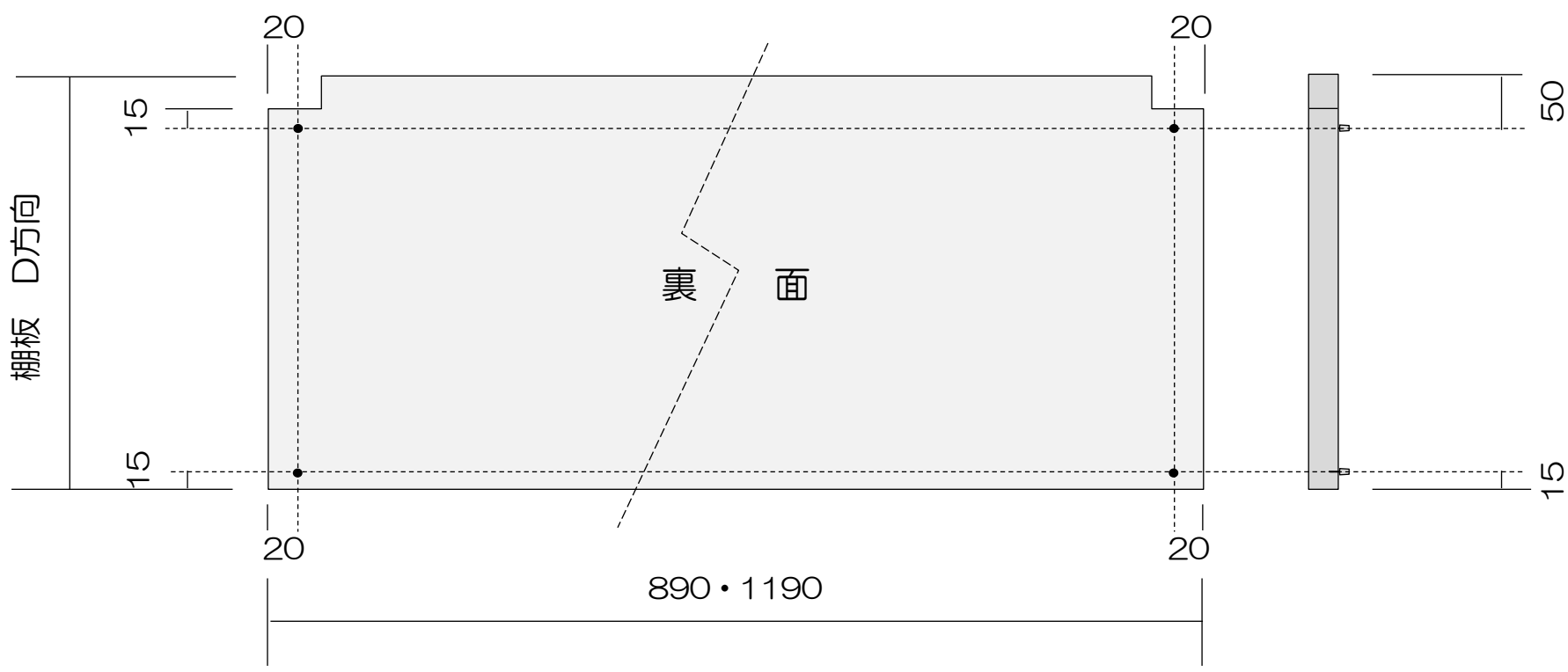
● ステージ棚板の裏側に打込ダボを ４個取付けます.



打込ダボは、かなづち等で打込んでください。

打込ダボ　位置





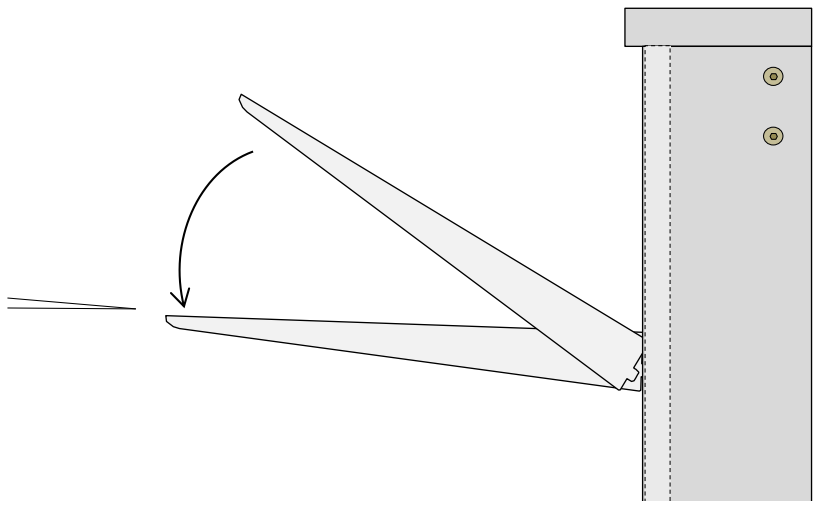
● シェルフブラケットの取付け

フレームについているスリットにシェルフブラケットを差し込みます。
シェルフブラケットの上の爪を、斜め上から差し込み、水平に戻す要領です。

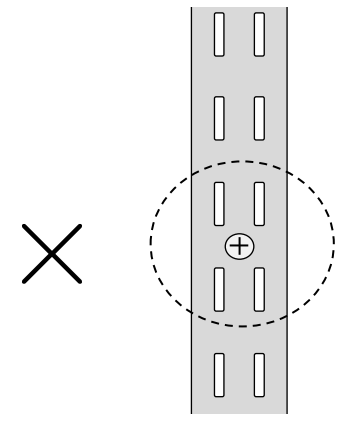
はずす場合は、その逆です。シェルフブラケットの前を斜めにあげてから抜くような要領です。

入れ方がむずかしい・・・・とのご指摘もあろうかと存じますが、シェルフブラケットが衝撃などで
簡単に抜けないような構造ですので、ご容赦願いあげます。

シェルフブラケットは、水平に対し角度が付きますので、
棚板を載せた場合、棚前部は多少上向きになります。
棚板及び棚に載せる軽量物のすべり落下防止のためです。
重量物を載せると水平近くまで戻ります。

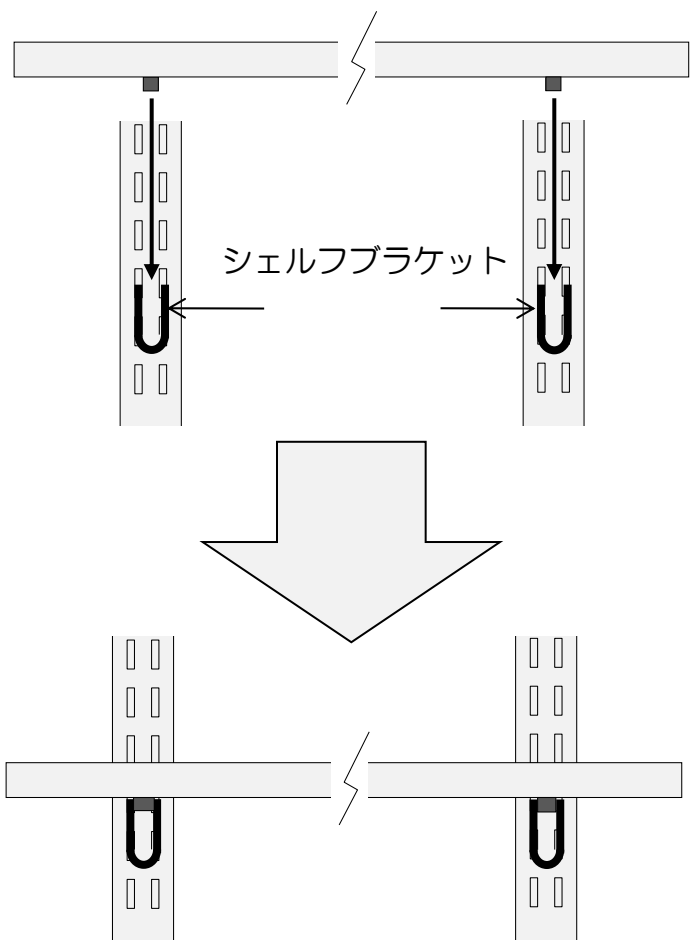


（お願い）
Wスリットアップライトを留付けているビスを
またぐ位置でシェルフブラケットを取付ける
場合、ブラケットが入らないか、あるいは角度が
きつく上向きになります。
この位置での取付けはおかえてください。

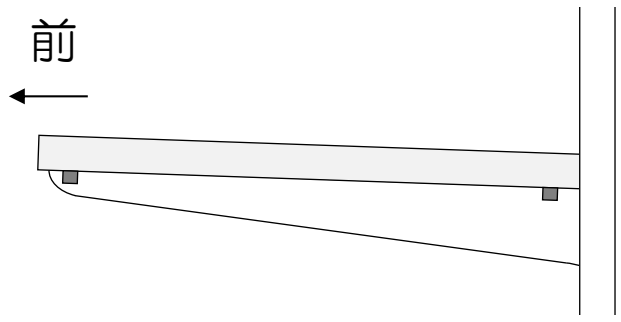


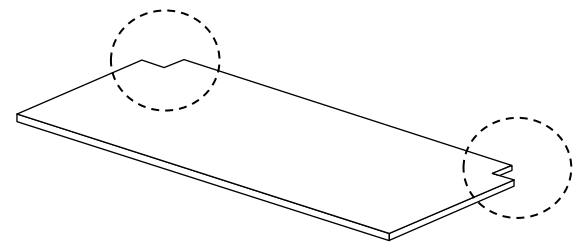
● 棚板の取付け

棚板の裏面のダボをシェルフブラケットのU字の溝に落とし込みます。

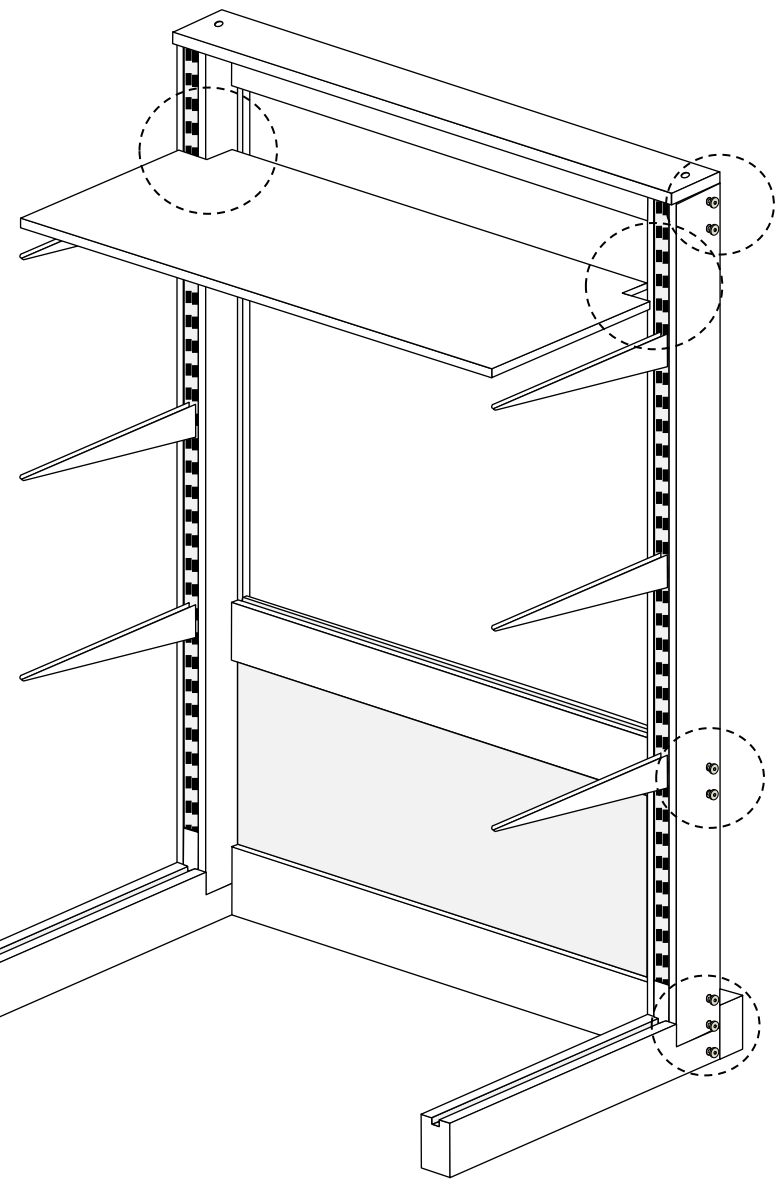


前部のダボは、棚板が前にずれるのを防ぐストッパーになります。





棚板の欠き込み部がフレーム内にうまく入らない場合は、
ジョイントボルトを少し緩めてください。



● ジョイントボルトの締めこみ

すべての棚板を設置が済みましたら、ジョイントボルトの緩みを確認し、再度締めこんでください。

無理に強く締めすぎたりしますと、埋め込み部分が破損する場合がありますので、ご注意願います。